



第3回 多職種連携に係る研修会

平素より本会の事業運営につきましては、格別のご高配を賜り、心からお礼申し上げます。さて、世界でも類を見ないほど急速に超高齢化社会となった我が国において、高齢者の口腔管理はますますその重要性を増していくことが予想されます。今回は多職種連携や摂食嚥下リハビリテーションなどの取り組みをされておられる浜松市リハビリテーション病院の歯科部長 大野 友久先生をお招きし、下記内容でご講演いただきます。医療現場で歯科従事者がどのような視点で患者さんに対応すべきか、他職種は何を求められているか、求めるべきか、考えさせられる研修会になるかと存じます。ご多忙とは存じますが、多くのコメディカル皆様方のご参加をお待ちしております。

研修日 令和元年10月12日(土)午後2時半～午後4時半

会場 熊本県歯科医師会館 4F

講師 大野 友久先生 (歯科医師)

浜松市リハビリテーション病院 歯科部長

演題 「支える歯科医療」

定員 100名

参加費 無料



日本は現在でも超高齢社会と言われておりますが、今後さらに高齢化が進展すると予測されています。「健康長寿」であればよいのかもしれませんが、加齢変化で様々な機能が衰え重篤な疾患に罹患する確率が上がるのは必定です。そのような中、我々歯科医療従事者はどのように超高齢社会に貢献すべきでしょうか？

これまで、歯科医療のほとんどが診療所に通院する患者を対象に診療を行うことを主業務としてきました。しかし今後、歯科的対応の内容に変化が生じると考えられています。歯の形態修復治療が無くなることはありませんが、その頻度は低くなるものと予測されており、代わりに口腔機能の向上食支援、口腔衛生管理といったニーズが増えてくることが予想されています。

さらには摂食嚥下障害における歯科医療従事者の必要性は高く、オーラルフレイルや口腔機能低下症といった新しい概念も構築されつつあります。我々歯科医療従事者が持つべきは「支える」視点だと思っています。支えるためには、その支えを必要としている人がいる場に歯科が存在しなければなりません。

その場とは現在是在宅・施設・病院になりますが、今後はそれらだけでなく、歯科診療所にも支えを必要とする患者さんの波が少しずつ押し寄せてくるでしょうし、周術期口腔機能管理など一部では現に始まってきています。

本研修会では健康長寿を「支える」という視点から、多職種連携などの現場において歯科の果たせる役割をお話したいと思っております。(抄録より抜粋)

- 参加を希望される方は、裏面の申込書へご記入いただき、10月10日(木)迄に熊本県歯科医師会事務局へFAX(096-343-0623)にてお申込下さい。



〈お問い合わせ〉

熊本県歯科医師会 在宅歯科医療連携室 金子
TEL:096-343-8020 FAX:096-343-0623

熊本県歯科医師会 行 FAX (096-343-0623)

番号の間違いがなく、お願いいたします。

【申し込み締め切り:10月10日】

第3回 多職種連携に係る研修会
「支える歯科医療」

令和元年10月12日(土)午後2時半～午後4時半

*出席される方全員の職名・氏名をご記入ください。

勤務先又は所属名		
職 種 名	氏 名	

※ 当日は、口腔保健センターで、障がい児(者)の歯科診療がございますので、専用駐車場への駐車はご遠慮下さい。



歯科医師会館への
アクセスはこちら

